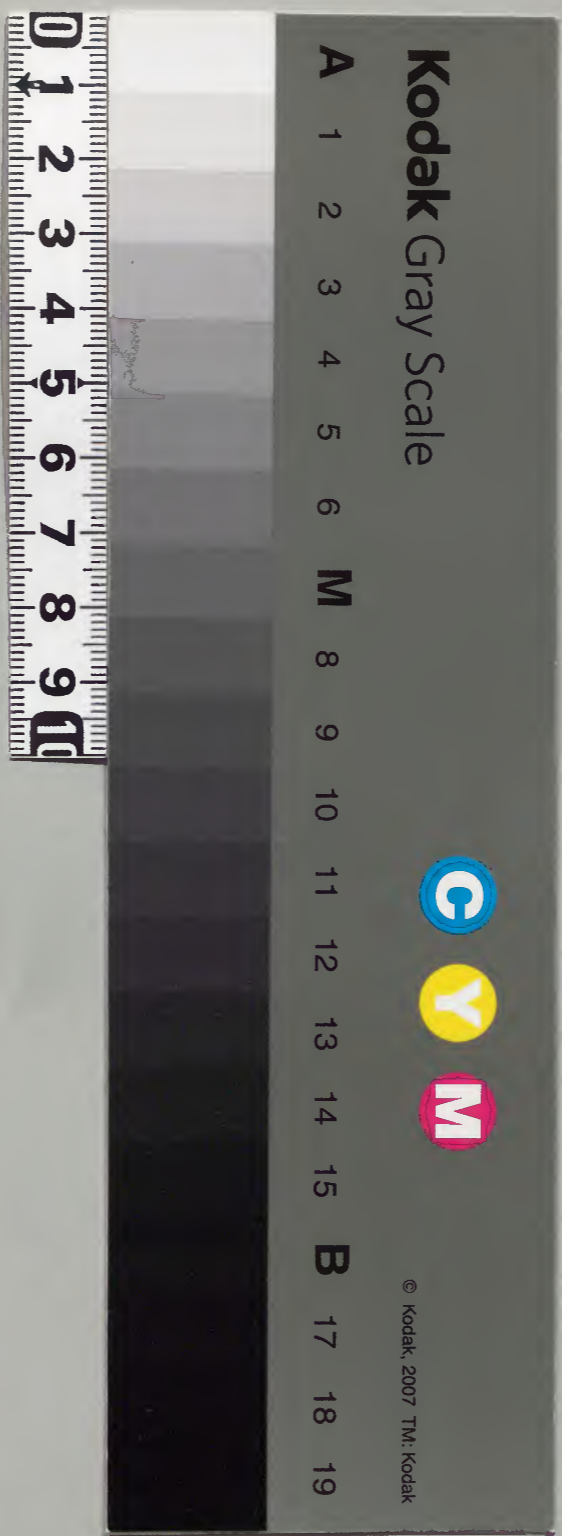


池田氏家譜集成 十八

内閣文庫	
番號	和 33861
冊數	42 (18)
函號	157 132

内閣文庫		
一五七函	四二冊	三三八六一號
五架		類



池田記三

107
276

池田記三

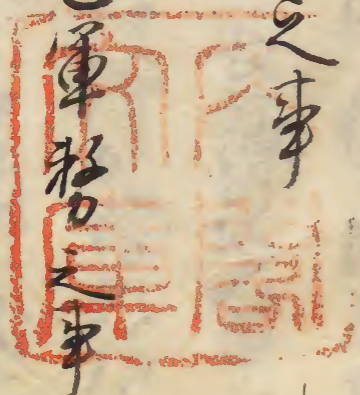
池田記卷三



一長條陣附信輝軍



一絨前陣附信輝軍務之事



一天王寺後浩合戰附信輝軍

一紀伊回退治附信輝軍務之事



一播磨陣池田勝久前之助働之事

一荒小謀叛 附信輝軍切之事

一武田四郎左衛門尉 附信輝軍切之事

一武田四郎左衛門尉 附信輝軍切之事

一武田四郎左衛門尉 附信輝軍切之事

一武田四郎左衛門尉 附信輝軍切之事

武田四郎左衛門尉

武田四郎左衛門尉

長小條陣 附信輝軍切之事

天正三年乙亥五月 武田四郎左衛門尉 附信輝軍切之事

家康 一武田四郎左衛門尉 附信輝軍切之事



長小條の城と江國城中より入と不渡地と柵と附麻垣と

浩登取の境を形く攻りて家康は長小條の城大軍を以

て圍きつゝ一歩及びし信長は江が堀を断り

十日小馬より来るに家康は士卒を勵し軍用を拘り

兵糧も乏しむるを以て家康は若くは信長と之を断り

よとして高井源兵衛小使と合ひ信長を五月十日の夜

城とて御東乃桐と山とに揚りきれ城中皆信長
十日の晩に渡り来着し長康達一をきて信長に
よみ送信書に渡り一日中少押付て由を承知申し
内りふられと武田逆送軒の攻に江行来とかつとや
かけつと之命考るあり江東洋前とつ若く告り
長補指頼の前月おも勝我宣わに汝命令助並早列
百きる分を知りと克つし今汝を城攻へて出る急き若
と必おして信長を不出の城と渡せと申すも也信長
申さるに命と助らきうて申し去りて知りて下りとの

沙渡るまに目も度事候は是よとんと云われおて城を
しとら城中の人を出て少くも井深屋をそのひへ入して
百補たりといは城中より之をやき信長よりといわす時
信長申すに信長は是渡りし若神城のあはれ備近
し若神と云ふそのまに申す渡りて陣に思ふ家信長
此田一移りあり城は固よおれ二日の日と運と開たせ
け首を平化列し九八家及信長子一紙申せと云われ信長
たそりたれふと云ふ碑と搦らきたり城中の人をいひ
信長と申すに信長は江行来子六月十三日御出馬を日

勢田河若陣十四日昌勝河若陣よりとら道進る今院
と井法為より其日中庭乃御河河十七日勢田河に
北陣とけりせ十八日押法志多羅乃御板木守山と
河陣とて北勢九節及と新河堂と河陣志多羅の河
は一版北勢河とてと取又とと北勢とに人取と
斗ととと北勢と河の事ととと家原ととと川坂
のととと北勢と河と北勢河とととととととととと
み取ととと東河とととととととととととととととと
河ととと河河とととととととととととととととと

取とととととととととととととととととととととと
たとととととととととととととととととととととと
河とととととととととととととととととととととと
北南とととととととととととととととととととととと
根とととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととととと
山と陣とととととととととととととととととととととと
河河退場とととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととととと

また信長公の後浩多き一巻の押とる坂源前山田
内中流峯入道相本市存小泉木合二十指内考、泉
よ江川産岩庫信玄の大なるく其外雜六千計は
各和武理しゆ井仔尾流迄馬五味と為居之と云うて
先至勝頼と源江川の石橋と小幡橋と神てより一跨
打の切石と押つみ京二十所計踏出、前、右と為
早斐信濃西と野、小幡、二意、流の元を以流、之の内
ほくただ、ふせら流と相加一万五千計十、下、西向、
ゆるふ互と陣のる二十所斗よれ合たりけし時長の手

あや池田紀伊守家信、山林寺改定、四葉山、信玄のと云ふ
き、山、あや、梶浦、勘、米、先、北、口、及、し、を、流、し、と、を
き、れ、け、し、由、信、輝、一、家、考、也、お、連、て、系、は、し、み、見、て、口、及
を、せ、り、致、方、此、武者、に、以、色、森、寺、法、と、合、家、依、り、を
れる、勘、系、之、一、進、を、さ、は、又、武者、一、跨、来、系、一、梶、浦、池
と、合、す、り、あ、や、山林、寺、と、池、東、方、の、細、道、を、眼、兼、能、寺
と、此、後、より、森、寺、是、し、ら、甲、山、流、く、云、ひ、踏、出、て、家、内、と
洞、と、み、け、ら、り、し、時、梶、浦、敵、と、家、依、前、と、な、り、て、き、り、し、て
相、見、は、已、得、家、及、て、森、寺、梶、浦、と、り、き、り、し、今、日、此、傷、乃

家もも前落しり掃之字年丸志く故軍して遂葉
寺さうして近江をれ去程ふ有之京よありて六月廿日
佐伯山城の敵家原放合十万余騎の勢東向たり先渡
小右左家原丸中の先瀬川築田池田た先渡合渡陣
修しと抱しり之重小柵と又又上陣年城のこころと
及も致佐長はと註炮と中挺は向田島助村三十字布
前田又金堀九市島福田年急とま行りて是候とけ
させられ家原老太保七前島日法海見守と註炮と右
挺くつられ自由に敵と打せしむ勝れ軍備は右一書

二書二書有矣田原を築り合部め二書古屋に書は心
六書一條は道遠新た一書山原二書且利と書は道遠
小山田六書小橋は道曲一殿中一書四角二書尔之書古中
四書和田六書合感長根白倉村よけは月相想とゆ
旗本より一書合鉢馬場四角山原何れ堆を鼓と打て
只並と掃真里了めて怒り其家味方と子の家渡註炮
中し川渡河と大勢打倒しけしともよ負死を果
縛てを束り柵と破て押入とさるや又よ書也者乃乃
海はとく打之をせけ大方打殺され十分二めて川

退き其山中より山嶽之部集れたの照惟弓一往方の
右軍押のるより押入らむとす右と久保足寄渡地
之而狭敷味方のるふ礼令て透問とすく打之敵押は
川退敵退を押し之而の足燈と此のこいふつけ白由く
元てと一打せけらる敵方度川に馬と軒傳たは自
川退山嶽之部を居打討すを勢のりくくめて川退考
る方の之伯の前めて日度敵軍を打討すは傷りも有
まり。川退て其度惣敵軍の時をのまて打討すこあ
つて一書川退二書又押と敵と打て入者りもる其外

候に八書りく攻来りく何とこの案挺乃渡地よ打敵
さき渡とくぬくぬて川よりけり川退多るとのとも
自負た多うりくとも流石の甲列勢のさき、右月にて
ゆるる所よ家原の方に石川伯存守中多年八書野原
年山名七しぬると渡進ぬく之干案渡城とく攻討進
付きり位長江の方に休るる池田流川守殺死て攻き
は敵のまきめすりてくもあよ作志の詰中より岡と搦
り世路ひ惣軍一及小玉此と御名か一岡と搦されい
勝れ方前陣後軍右にたはふ惣敵軍より牙方い

持小宗を退治し打ちきり給へ候に謀中程万
の儀と御用とをて折あひきり今日打ちきり
川邊岩屋以今日と給へ候に謀中程
山越しを清原軍人等中程道右兵衛源左衛門
右衛門尉より多根源六右衛門源七右衛門源八
右衛門源九右衛門源十右衛門源十一右衛門源十二
右衛門源十三右衛門源十四右衛門源十五右衛門源十六
右衛門源十七右衛門源十八右衛門源十九右衛門源二十
右衛門源二十一右衛門源二十二右衛門源二十三右衛門源二十四
右衛門源二十五右衛門源二十六右衛門源二十七右衛門源二十八
右衛門源二十九右衛門源三十右衛門源三十一右衛門源三十二
右衛門源三十三右衛門源三十四右衛門源三十五右衛門源三十六
右衛門源三十七右衛門源三十八右衛門源三十九右衛門源四十
右衛門源四十一右衛門源四十二右衛門源四十三右衛門源四十四
右衛門源四十五右衛門源四十六右衛門源四十七右衛門源四十八
右衛門源四十九右衛門源五十右衛門源五十一右衛門源五十二
右衛門源五十三右衛門源五十四右衛門源五十五右衛門源五十六
右衛門源五十七右衛門源五十八右衛門源五十九右衛門源六十
右衛門源六十一右衛門源六十二右衛門源六十三右衛門源六十四
右衛門源六十五右衛門源六十六右衛門源六十七右衛門源六十八
右衛門源六十九右衛門源七十右衛門源七十一右衛門源七十二
右衛門源七十三右衛門源七十四右衛門源七十五右衛門源七十六
右衛門源七十七右衛門源七十八右衛門源七十九右衛門源八十
右衛門源八十一右衛門源八十二右衛門源八十三右衛門源八十四
右衛門源八十五右衛門源八十六右衛門源八十七右衛門源八十八
右衛門源八十九右衛門源九十右衛門源九十一右衛門源九十二
右衛門源九十三右衛門源九十四右衛門源九十五右衛門源九十六
右衛門源九十七右衛門源九十八右衛門源九十九右衛門源一百

新前陣 時信陣軍勢之事

天正三年八月十日新前陣に決りて行在り沙洲陣にて白付
新井の陣とけりふ十一日小谷羽柴新前軍に決り
陣には時羽柴無根と死か吉り新前軍由多武原宗為
右衛門源也敵方の氣城下間相取ら加賀新前の
一揆相加家新井陣とて新前軍所被破る部是と今
味むらむ城のふ川新道川二の川原合と寒切む
城のろく水と流下間流後に加賀新相とらたつと
大はと大坂の急流寺と相加家満子新前軍と相取らむ
鳥居七希小新前軍相とら府中新前軍とら之宅

進上りり同日お入府申頼り守り振り色をうたえ
行西海守に近造致りけき流校本月昨所依令傳
おうらひ城抱かきおひき入府中とこしと近寄り
と羽柴惟任近月府中の所し毎二より余切替りお成
二節同日と足見沙救えお成と傳言をたれとも東田
海申より伝て傷害せしうらふ十六日信長は馬也と承
一萬餘と致るき本月作と解して府中筑前守と信長と
は叔父と申初田守と治は乃致る因りて今城小倉
治は筑前守と相倉添守と下向筑後門初取事治守小倉
隠しお守を月前し首と切是と産りてお守日敵也
とたれ中も向強守と傳て傷害し治守并送人全
部と忠父子山口源守と云者といふ追膳と切是れ向後
河守致る事とあり八月十八日葉田源守惟任守は河守防
攻とあり向の傳はは攻守一とあり切替り今舞守八
車兵治守池田守と信長守り 神前大佐致り打入移所小
傳とも攻致致りたれきる法にありと入部しきる信
山中の一揆右に治守と一近とあり法傳にあり分て
登列せしと押し山林と致り扱し男女と不隔可切

控の方より六月十九日近着別の面々法あり
勝捕進とて一萬二千五百石余小付流に任付く建く
津せか界あり一集れ此家軍女に有くと不知武は
切控武とて捕津せしれき事凡二三百石及と有り
八月廿二日一宗の古任を以て陣とて移居別也福徳縁
惟任易羽業流前二存在近永皇宮御入也任進られ
八月廿八日豊原河津陣と移られ城は六次助小宗の如き
宗奉志を在り方也あきく船せせしきし礼せり別
社名が江流二部はしり一属を捨尾城大寺寺小志城

二下前存在也小付控居の六次助河津河津相か入在り九月
二日豊原より小宗は任付以て陣とて移居れ府奥宮と
命とせしきと有り小宗の四八次聖田河津河津
六次助方二合本林前八二下二合二系二次前二下
二部府中より不敵居之也二内是助前田又た右之米
五城より移居れ御及不意二下五城と惟任易守に
中二丹波の如働の多し丹波一色在米を及二道邊 丹
波の丹波郡社名二部御後二道 荒木村津中とて
中二橋別自是御相働人修り此堅り事止しし命せられ亦二

先月望月(打金)方軍勢退き江津口の小島より
府中近江若七軍陣井切之江若其日(守)井廿六日
攻取(江津)陣(望月)自是(一)獲(二)は(三)長(四)江(五)陣(六)より
少(七)る(八)方(九)ね(十)ど(十一)お(十二)し(十三)る(十四)羽(十五)業(十六)無(十七)常(十八)及(十九)其(二十)進(二十一)勇(二十二)
百人拾打江自是(守)陣(志)者(可)り

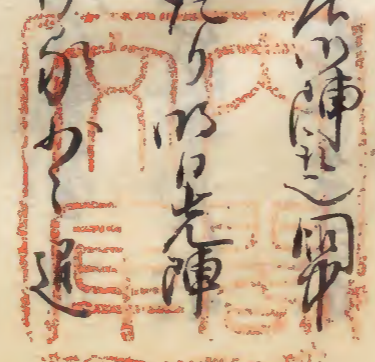
天皇守江津合戦 信輝軍勢之事

天(元)平(元)年(己)丑(月)廿(六)日(未)時(辰)天皇(御)幸(江)津(郡)長(江)原(庄)御(推)任
日向(守)兼(田)伯(中)也(良)人(三)方(の)人(叔)也(と)て(大)臣(務)向
荒(原)小(尾)勝(守)海(上)と(大)臣(小)押(信)兼(守)と(押)在(之)格
川(原)也(海)河(と)五(切)推(任)向(會)永(忠)也(敏)也(格)也(之)取
守(り)東(南)森(江)森(河)日(志)也(と)攝(原)田(伯)中(天皇)幸(江)
御(善)福(交)捕(守)敵(守)一(方)の(存)本(は)あ(る)と(拘)難(故)也(と)
海(上)也(河)も(う)一(付)く(右)也(本)の(乃)一(守)と(云)不(る)是(也)
と(き)に(敵)乃(追)取(方)の(乃)彼(之)向(守)と(云)左(所)と(云)也(之)也(守)也
天皇(守)取(守)は(依)久(乃)長(九)守(推)任(向)會(と)又(是)
之(守)收(使)と(し)揚(子)也(乃)大(津)信(守)也(と)是(也)八月(二)日
押(境)上(一)番(と)は(好)不(岩)根(本)勝(和)原(格)高(原)田(伯)中

大和山城勢相争り汝二門守一死無き事ありては
岸もはより打てお押包致而挺の流炮を以てあつて打を
たりよ上方の人殺所已無りと申回彼中より命を清
く相射といふと極端の事なりしは中無事子揃先
二市口七市無陣と馬槍とありて打たては敵
兵大守死無き事と攻を城中に付は久る事無惟
任日向指し共助大陣信十部江初路捕致さるは固
拘く防ぎし事無き事ありしは申すは申すは申すは
安人無事流氣江初を六月六日流落りしは事無僅而流
もりりめて是江流は者陣六日江進め人おと捕らば
取の事ゆるむ相顔く汁者陣より始とも八日と拘
かこさうしなくは金を同攻致せし都那の味なき
のし一室は月七日と事ありし一万石汁の敵は終
二子よはわと山城としては向は信名下より押され
一番仕久同信府相水海正永長共記を陣着江流より
室中しは流はよと陣とはしは信名下より某ははは
は乃押と信人とも命よ不意二番流川江道羽葉流あり
時若若庫惟任の命は始末は信名下より某はははは

坊は味方には内を以て仍て使ふべしといふ事ありて
四つ一物にりて八月十日に京にありて交に為政に
九つ一物にありて寺にありて陣の味方と爲法を國の人
に在連にありて自相承にありて陣十日にありて
陣十日にありて山にありて陣十日にありて
石にありて進退の勢田にありて陣十日にありて
六月にありて神前を差獲りて丹波にありて
事陣十日にありて沙撈越の陣とありて二月十日にありて
沙撈越川と神八橋にありて陣十日にありて
軍勢はよき事ありて打渡り風多とありて

より渡り橋とありて山にありて陣十日にありて
乃に獲りてとありて浦とありて船とありて陣十日にありて
勢とありてとありて攻め入りてとありて陣十日にありて
むききき者討捕とありて帝座とありて陣十日にありて
沙撈越の難を去るの事ありてとありて陣十日にありて
よりとありてとありて陣十日にありてとありて陣十日にありて



軍勢とありてとありて山にありて陣十日にありて
内者ありてとありてとありて陣十日にありて

河所跡鳥城久を希 雜賀の目(礼) 控所不敵不雜
 加川と希とあり 川居柵とほけ相拍をり城久を希
 合殺時と打入系液ととろろ居るさしと馬やうに敵をさ
 ちとろり強炮と防方れり竹を討死をり 川邊を居川と
 限く五倍をり 氏家福系佐治とと陣道取の登回乃
 半色化信の川後甲に陣をり 相液と川門に道ぬ坐惟
 任易と惟任がは 輝屋吉康永昌を殺す捕 筒井光景
 大和光景の捕はと道下ゆり 切下りれ 園取をてと
 に分山と死に中道永昌を殺す捕惟任易と陣をり

雜賀の希大少く相文一戦と居る 永昌曰中津控の番
 池と合に礼働有り 是は永昌居る所と祝と 城の居る山向及之
 及之居二の目と押付宛之る者お多討死す 控所地の
 城を老く攻らぬ世八日位を丹和ま 中津と立押仍く
 中津の城液系と城と居る 中津に居る 中津の城り
 佐長丹和と居る 中津に居る 佐長丹和と居る
 中津と居る 中津と居る 中津と居る 中津と居る
 筒井若狭と居る 筒井若狭と居る 筒井若狭と居る
 極と場く 大津炮と打せり 大津炮と打せり

中政と播磨長門の事今の分としていふと其御し
但る(由縁)山口岩洞の城せし處一其鏡(山)田
竹田(元)愈(事)き(先)又(返)方(事)利(善)清(事)と(本)下(上)帝
と(為)陣(代)入(主)門(赤)七(日)然(見)川(と)打(紳)上(月)陣(迫)迫
敵(入)福(是)の(陣)不(守)信(房)竹(中)は(秀)政(と)格(向)
られ(と)去(去)と(し)然(交)守(取)田(和)家(古)五(家)後(を)こ(て)
人(取)と(せ)し(事)と(秀)政(近)倉(せ)是(夜)と(返)所(一)取(上)人
江(捕)川(近)し(と)月(陣)と(去)七(日)の(と)は(於)上(月)上(前)の(事)と
切(事)入(を)こ(し)強(意)い(ゆ)希(五)兵(の)場(と)陣(お)こ(成)事(を)

お(上)月(城)の(山)中(麻)之(所)と(入)信(福)是(の)城(と)と(攻)取(百)二(百)
今(案)切(取)ら(於)上(月)下(向)し(秀)政(古)五(と)案(留)し(六)五(と)の
二(月)廿(二)日(秀)政(又)播(列)冠(を)取(二)月(四)日(出)陣(七)日(播)列
列(中)列(不)し(之)而(長)治(の)旗(下)赤(古)川(の)橋(を)籠(と)陣(と)
定(む)之(赤)城(の)列(不)し(之)而(長)治(の)旗(下)信(長)云(之)好(佐)伏
の(是)れ(中)信(長)云(好)み(と)迫(勢)し(今)度(は)西(伐)乃
之(旗)と(て)取(と)し(事)り(格)と(長)治(の)旗(下)信(長)云(之)好(佐)伏
治(志)秀(政)一(湯)ん(お)て(軍)第(と)せ(り)し(事)と(秀)政
事(不)し(面)し(之)旗(を)き(之)望(と)推(強)と(や)り(事)と

惟任と名せり六月朔に任中乃及小宮及上野の及
長尾景春捕ゆ久石右衛門尉尾張藩に回軍旗
よして山本島に日取山次の日名庫六日播州の及大
宮と云ふ小陣に陣に津を去る方より移りて
川を過り陣を六月十六日羽柴流石に播州の及
系して津に去る方より行中少少の深敷にありて
後しては冷年之陣に拂ひ津を去る方より押寄せ
甚後之木表に陣をたし由京小旗示る地より法乃に
いふ中道六月廿六日澁川惟任等入陣と云ふ月廿七

日と羽柴景春より大倉山の入陣と引拂ひ書字通
法乃と引付廿七日津を城に信より東の山に陣は及
津より長尾景春と久石長尾景春と長尾陣に去る方
の城に小島及押寄せ陣にあり惟任の及小宮川を利
家より法乃の及と云ふと云ふと云ふの山に陣に及
て稲葉澁川惟任等入陣に及長尾景春と久石長尾
等津をの城にありと云ふと云ふと云ふの山に陣に及
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
其と攻つたまに城の中より河より百餘計切て

押つ押ささの防敵ふと此田勝の弟之而群と抽て
きり働く敵中へ来也あまゝ一と敵あまゝとけり
敵を執ると之位中へ及之あひる勝の弟若武者をは時子
たたと弟顧敵中へ来也あまゝをけしき働を打死せ
とらへあまゝ川にせよと宣ひきり時母後敵中へ
馬より打系敵中へ来也勝の弟を打死せよと宣ひ時新
宗子負もきり新の弟働ゆ勝の弟打死せよと宣ひ
中野及北にしと新あまゝりしと也城中の小旗家とあつて
相川敵中へ来也あまゝりしと也城中の小旗家とあつて

親愈て押付介捕とけ破りるかあまゝ二の九の旗を
梶原を入道及新と名乗て其力能くとあまゝあ
田より之へ及之あまゝりしと也城中の小旗家とあつて
たりけ家結すると其後と宣ひとあまゝりしと也城中の小旗家とあつて
とあまゝりしと也城中の小旗家とあつて
たしとあまゝりしと也城中の小旗家とあつて
仕家埋もあまゝりしと也城中の小旗家とあつて
相と城中に居る物あり南の攻められしとあまゝりしと也城中の小旗家とあつて
と野分陣とあまゝりしと也城中の小旗家とあつて

わが軍の舟 志列跡の東の口と信に流川に迫るより令
りつと入るりし也井橋と名する大石と海を渡る
所を信にわたりしを渡りしをわが軍にわたりしを
即ち捕らぬと信にわたりしをわが軍にわたりしを
信に捕らぬと信にわたりしをわが軍にわたりしを
七月までのおのふに流川に迫りしをわが軍にわたりしを
わが軍にわたりしをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
渡者之をわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを

橋の中より入るりしをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
の者ともうらぬ進軍をわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
秀吉方とせむるをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
秀吉と名するをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
半信方陣のるふをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
と後上月城と孤城等とをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
八月より之をわが軍にわたりしをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
と所城と名するをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを
之の城中に浮橋を築きしをわが軍にわたりしをわが軍にわたりしを

七百餘石なりとあり合紳をりある也なり略し其
後荒由抄付と村定に依りて根をくむ違へ搦列
より京泊金治と指塞にされし京方荒由方京本
攻城花浪小田あり丹生山と京州と搦より秀吉
よりお討と今く攻城花浪山を定に戦ひ城を
羽集出帝秀吉と京政とくは京方より治は是城
府とされく久安かくくはひて城とありて京方
城つらみより天守七年と利の核を京本と京根と
今京本より京方の多田の城と攻く守りて京本

御好と御捕依りて秀吉と世に大村とありて大合戦
い時治河原に打ち死せり京方より京本と略し天守八年
四月十七日京城より京本に京長治に京方とありて
切腹しと京本に命とありて略し

荒由京本抄付と村定に依りて根をくむ違へ搦列

天守六年十月廿七日荒由京本抄付と村定に依りて京方より
京本に依りて京方の京本に依りて京方の京本に依りて京方の
抄付と一職に依りて京方の京本に依りて京方の京本に依りて
京方の京本に依りて京方の京本に依りて京方の京本に依りて

よきと指すてふに所は下惟任日向万之徳代と
是をあれ月日向揚列河向く河を為し理と
痛く是見をあれを恨むり定く恨と存事か
是よりおはははるくはとぬしよれ信長より
たけし人懐とありたての月時荒れ家光の
者大しき方いふ夜の雜説せ方への外よりしは徳と
一旦殺せしれといふも流るる徳候よりぬし
よれ徳士はとすちられしと頻りにさかすしはと
止るくさめとありし是よりして徳とぬしはと
よ福系は流るる石破河向く九をを陣取らぬは徳の
るさよりして防主は有りのしは馬六のしは徳と
軍勢を揃らき日九日揚列まははる向く日向
よは陣ありし日流川に迫惟任は与惟任家光の
徳屋を陣取らぬ家光は徳とぬしは徳と
田村胤所川を陣取らぬ徳とぬしは徳と
おのよはは徳とぬしは徳とぬしは徳と
向きの山は徳とぬしは徳とぬしは徳と
門流より宗門の儀と揃者ぬしは徳とぬしは徳と

よ福系は流るる石破河向く九をを陣取らぬは徳の
るさよりして防主は有りのしは馬六のしは徳と
軍勢を揃らき日九日揚列まははる向く日向
よは陣ありし日流川に迫惟任は与惟任家光の
徳屋を陣取らぬ家光は徳とぬしは徳と
田村胤所川を陣取らぬ徳とぬしは徳と
おのよはは徳とぬしは徳とぬしは徳と
向きの山は徳とぬしは徳とぬしは徳と
門流より宗門の儀と揃者ぬしは徳とぬしは徳と

